

「郷土の伝統工芸 讃岐かがり手まりを作ろう」を開催しました

平成22年11月4日・11日の2回にわたって、讃岐かがり手まり保存会の荒木永子さんを講師にお迎えし、講座を開催しました。

讃岐かがり手まりは、糊がらの芯に木綿の糸を何重にも巻いて作られた土台まりに、自然から取れる染料で染めた木綿糸で模様をかがったものです。昔は身近にあるものとして親しまれていましたが、近年は作る人も少なくなり、工芸品として観賞用に愛用されるようになりました。



講座では、1回目に「菊かがり」、2回目には「星かがり」にチャレンジしました。

針を出す場所、糸の置き方など、最初は戸惑う場面もあったものの、受講生の皆さんは針を持ち慣れている方が多いのか、慣れるとどんどん自分で刺し進めておられました。

土台まりが色とりどりの糸でかがられていき、世界で一つだけのオリジナル手まりが出来上がりました。

早くも「2個目はどんな配色にしよう？」と糸を選ぶ方もおられ、皆さんにふるさとの貴重な伝統工芸を身近に感じていただけたようです。

また、部屋には複雑な模様でかがられた見事な手まりがたくさん展示され、受講生の方々は、手に取ったり、感嘆したりしながら鑑賞されていました。讃岐かがり手まりの手仕事ならではの暖かさと、奥深さに触れた講座でした。

